

ふるさとわかまちづくり

篠原自治区

◆「篠原」ってどんなまち

霊峰猿投山の山麓西南に位置し、国道 155 号線を市街地から瀬戸方面に北上して約 20 分。保見団地の西側に緑に囲まれた篠原自治区があります。世帯数 135 世帯、人口約 450 人、老人クラブ(60 歳以上)170 人で老人比率(38%)の高い自治区です。

当自治区では、八柱神社秋の例大祭をはじめ、祈年祭、新嘗祭、天王祭、盆踊り、14 日念仏など地域の伝統行事を大切に伝承しております。近年では、ふれあい餅つき大会、ふれあいサロン、交通防犯教室、町民マレットゴルフ大会など新しい行事も取り入れて、住民の世代間ふれあいを通じて自治区の活性化を図っています。

自治区内には、昭和 39 年に開業した東名古屋ゴルフ場をはじめ、篠原工業団地(グリーンテクノピア)、名古屋グリーンテニスクラブ、トヨタ関連部品健康保険組合スポーツセンター、東海フットサルクラブ、豊田北消防署保見出張所、愛知環状鉄道篠原駅などの施設があります。

自治区運営の基本方針「安全、安心で住みよい自治区」を旗印に、自治区役員、組長、各種団体が一体となって事業展開しています。

南北に縦断している国道 155 号線は、昭和 30 年代にはガラスや瓦の原料などを運ぶトラック街道として、大型のダンプが往来していました。

昭和初期に岡多線(現、愛知環状鉄道)の鉄道計画が進まず、昭和 5 年 12 月に日本で最初の省営バス(後の国鉄バス)が岡崎—挙母—瀬戸—多治見間に開通し、鉄道の代行として運転され、交通の便が良くなりました。昭和 63 年 1 月漸く愛知環状鉄道が開通し、篠原駅もでき更に交通が便利になりました。同時に国鉄バスの路線も廃止となりました。

◆「篠原の歴史研究

平成 19 年 4 月、有志により「篠原町歴史研究会」が発足され、郷土の言い伝えや貴重な史実、文化遺産などを調査収集し、「ささばらだより」に掲載しています。

●篠原の歴史

篠原の発祥は、不詳ですが、今から 700 年前南北朝時代中期(貞治 3 年、西暦 1364 年)の猿投神社の上葦勧進帳に佐々原郷からの寄付の記録があります。



●伏龍山永沢寺

国道 155 号線から東へ 1.5km 山奥に伏龍山永沢寺(曹洞宗大本山総持寺の直末寺)があります。今から 540 年前戦国時代初期(文明元年、西暦 1469 年)に創建され、現在地より 2km 奥地の弥陀返の地にあり、永源寺と言われていました。

今から 360 年前の慶安元年(1648 年)に今の地に移り永沢寺と改称されています。この寺には、豊田市の文化財指定の今川義元の禁制安堵状があります。今から 450 年前(弘治 3 年、西暦 1557 年)のもので、当時、今川氏の勢力が西三河北部まで及んでいたことが分かります。

●棒の手(藤牧検藤流)の伝承

篠原の棒の手は「献馬飾」の箱に記載されている通り、今から 200 年前の天保 3 年(西暦 1833 年)既に、伝承されていたと推測されます。

昭和 15 年ごろまでは、神社に奉納されていたと長老から聞いている。昭和 18 年か 19 年の 2 月に隣家の火災延焼により、「祭り道具」の保管倉庫が焼失し、棒の手は中断。伝承者の最後の一人も平成 18 年にご逝去さ



献馬飾り

れ、完全に中断となっています。いつかは、復活を…。

篠原の流派は、明治 6 年に尾張今村(現在の瀬戸市)から伝授され、その後、篠原から猿投村四郷下古屋(明治 42 年)、旭村杉本(大正 2 年)に伝承されたと記録があります。

◆「豊かな心を育む会」(主催自治区)でまちづくり

平成 20 年度、保見地域会議の「わくわく事業補助金制度」(地域の活性化のために、住民が自ら考え自ら実践する団体を支援する制度)に、応募し事業を進めて来ました。2 年目の今年は、市の支援を得ず自主自立の運営で事業展開することとしました。

会の目的は、自治区民が「豊かな心」の大切さを意識するために、具体的な体験で実感できる事業を実現することです。自治区役員、子供会役員を中心とした運営委員会で行っています。活動テーマは、「大沢川の自然とのふれあい」と「ホタル鑑賞会」で次の活動をしています。

- ①大沢川の定例ゴミ回収
- ②行灯づくり講習会
- ③ホタル講演会・鑑賞会
- ④ふれあい竹細工教室
- ⑤大沢川さかな探検隊と魚教室(協賛、大畑小学校)
- ⑥ホタル飛翔観測
- ⑦カワニナ、シジミ生息調査
- ⑧「大沢川の環境美化」と「ホタルの里」の看板設置(設置済)

また、活動目的は、自然を生かした世代間のふれあい、活動を通じた子供の健全な育成、そして、自治区民が自然環境の保護、命の尊さ、道徳など「豊かな心」を育むことにより「安全安心で明るく住みよい町づくり」をすることです。

※活動状況は、「ささばらだより」(年 4 回)を利用して、自治区民に報告しています。



大沢川での魚教室

◆まちの課題

篠原の最大の課題は、自治区を縦断している国道 155 号線の交通量が多く、朝夕のラッシュ時には長い時間待たないと国道へ出られないことなどです。交通渋滞(国道 155 号線)の解消はいつくるのでしょうか。

まちづくりの基本は、地域が長年抱えている課題を優先して解決することではないかと考えています。



大沢川の定例ゴミ回収



行灯づくり講習会

篠原自治区データ (H21.4 現在)

設立：昭和 42 年
世帯数：135 世帯
：155 世帯(昭和 54 年)
組数：12 組
面積：5.186 Km²
自治区たより：「ささばらだより」
回覧：月 2 回
防犯灯設置箇所：29 箇所
小学校：大畑小学校区
自治区会館：篠原公民館